

24年 4月 4日

新宿区長 へ

法人名 NPO法人 みんなのおうち  
 所在地 新宿区早稲田南町31  
 (フリガナ) こじま たかお  
 代表者氏名 代表理事 小島 高夫

## 事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

### 記

#### 1 助成対象事業

事業名	大久保アートプロジェクト —子どもから発信する多文化共生—
実施日時又は期間	平成23年5月～平成24年3月
対象者の範囲及び人数	大久保地域及び周辺地域住民、新宿区全域の子ども、その保護者、新宿区住民
事業内容	アートワークショップなどを実施する中で多文化共生を考える 1、リーダー養成合宿 2、フォトワークショップ 3、写真ワークショップ 4、ミュージックワークショップ 5、ダンスのワークショップ 6、DVD制作ワークショップ 7、制作映像上映会 リーダー養成合宿は「みんなのおうち（魚沼市）」、写真ワークショップ12月4日開催分は子ども総合センターで開催。その他はすべて大久保地域センターで開催。
具体的な活動状況	1、リーダー養成合宿：8月5,6,7日 参加者数：総計50名（映像先生4名、引率者6名、ボランティア学生13名、子ども：27名） 魚沼市にある「みんなのおうち」で高校2・3生が中心になりDVD制作を実施し編集やワークショップの組み立てを学習、制作した5本のDVD上映会を実施 2、フォトワークショップ：9月4日、10月2日、11月6日 参加者数：総計76名（9月4日23名、10月2日25名、11月6日28名） 予定には無かったが実施要望が多く寄せられたため実施 3、写真ワークショップ；12月4日、12月10日 参加者数：総数47名（12月4日22名、12月10日25名） 12月4日は子ども総合センターで実施し、大久保以外の地域の子どもたちが多く参加し総合センターを中心にしたフォトマップを作成。12月4日は大久保地域センターでは無く、子ども総合センターで実施した事で大久保地域の子どもと若松地区、東戸山地区の子

	<p>どもたちが交流できた。</p> <p>4、ミュージックワークショップ：12月17日 参加者数：68名 多文化背景を持ったミュージシャン2名による子どもたちと歌を作り曲を付ける初めてのワークショップであった。子どもたちには大変好評であった。</p> <p>5、ダンスのワークショップ：2月26日 参加者数：35名 子どもから自発的にダンスのワークショップの開催を希望し、講師はダンスが得意なフィリピンの高校生2名</p> <p>6、映像制作ワークショップ：1月15日、2月5日 参加者数：総数62名（1月15日30名、2月5日32名） ・1月15日は経験者のスキルアップを目指し映像編集を実施 ・2月5日は未経験者向けに実施し、物と人でのコマ撮りアニメを屋内と屋外で制作。子どもだけではなく地域の人や大学生、活動に興味を持った立教大学教授石黒先生他研究者も参加した。</p> <p>7、映像上映会と多言語絵本読み聞かせ：3月24日 参加者数：95名 大久保地域センター多目的スペースで、過去3年にわたり制作した作品と都内の他の団体が制作した作品も上映。また参加者の交流を目指して映像ワークショップを経験してもらった。更に大久保図書館との共同企画として多言語絵本を多言語と日本語とで読み聞かせを実施した。タイから来日した子どもにタイ語の絵本を日本語訳、フィリピンから来日した子どもにタガログ語の絵本を日本語訳にして夫々、子どもには母語で絵本を読んでもらい、図書館職員が日本語で絵本を読む企画を実施した。</p>
事業の成果	<p>① 過去3年間アートプロジェクトを実施してきた結果、リーダー養成合宿で年長者である高校生が映像制作の企画運営を実施した。</p> <p>② 映像制作をコンセプトとして他団体(例：大田区、八王子市、鷹取市)との交流に高校生が参加</p> <p>③ 活動が大久保地域だけではなく、他地域でもワークショップが実施できた</p> <p>④ 予定していたワークショップを実施することが出来た</p> <p>⑤ 予定していなかったフォトモのワークショップが地域の希望で実施する事になったのは、今までの成果が理解された結果である</p> <p>⑥ 作品展示を国際交流基金ロビーと画廊小山で展示</p> <p>⑦ 子どもが自主的にダンスのワークショップを企画運営、リーダー養成合宿をした結果と考える</p> <p>⑧ 映像の上映会に都内の同じ活動している4団体が参加し、子どもの交流が実現した</p> <p>⑨ タイ語、タガログ語の絵本と日本語での読み聞かせが出来た。これも多文化共生を理解してくれた大久保図書館と共同企画となった</p> <p>⑩ NPO 助成による2年間のアートプロジェクトによる多文化共生を推進する試みが24年度の協働事業に発展できた</p>

2 助成対象事業費内訳（実績）

※ 内訳は、できるだけ「単価×数量」で示してください。

※ 1万円以上のものについては、領収書（写し可）を添付してください。

収入	経費	積算根拠（内訳）		金額
	団体負担金			13,836円
	参加費・資料代等	フォトモ参加費 500円×76名=38,000円 合宿参加費 5,000円×23名=115,000円 写真ワークショップ参加費 500円×47名=23,500円 ミュージックワークショップ 200円×68名=13,600円		190,100円
	その他の収入	NNT ドコモ助成金 30万円、 ヴィアック協力金 10万円		400,000円
	協働推進基金助成金	助成金申請額		500,000円
	計			1,103,936円
支出 （助成の対象になる事業費の内訳）	費目	決算額	内訳	
	会議費	39,582円	大久保地域センター多目的ホール（¥6500+¥5000）¥11,500、 大久保地域センター会議室（¥1,200+¥2,700+¥2,700+¥2700+ ¥3,800+¥3800）¥16,900、会議資料コピー¥8,902、会議記録 ¥2,280	
	宣伝費	34,367円	広報頒布用本代¥13952、チラシ印刷¥20,415	
	リース費	260,000円	機材レンタル¥80,000 貸し切りバス¥180,000	
	消耗品費	20,412円	文房具¥10,024、薬¥5,958、参考資料¥2,812、ゴミ袋・延長コー ド・紙コップ¥1,618	
	謝礼	410,000円	コーディネーター¥30,000、写真講師（¥30,000×2回）¥60,000、 映像講師¥150,000（¥10,000×4名×3日+DVD制作費¥10,000 ×3日）、ミュージシャン（¥25,000×2名）¥50,000、フォトモ （¥30,000×3回）¥90,000、 絵本翻訳指導（¥15,000×2日）¥30,000、	
	人件費	120,000円	事務局3名（¥2,000×20日×3名）=¥120,000	
	材料費	51,836円	印刷費¥2,658、DVD¥1,670、ポストカード¥1,860、紙¥9,053 フィルム¥5,517、ボード¥9,177、インク¥17,490、その他¥4,411	
	交通費	22,040円	ガソリン¥3,540、駐車代¥5,500、交通費¥13,000（写真講師交通費 ¥10,000 京都⇄東京、フォトモ講師¥1,000×3回）	
	その他諸経費	49,340円	通信費¥4,240、送料（作品、機材送付等）¥16,710、保険料¥28,390	

助成対象事業費（小計）	1,007,577 円	
余 剰 金	円	
助成対象外事業費	96,359 円	飲み物¥14,920、おやつ¥4,723、参考文献¥4,816、 食事代¥63,790、タクシー¥8,110
事 業 総 額		1,103,936 円

### 3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
事業を計画した当初に決めた目標について、どこまで達成できたか。	事業の計画通り全部実施でき、更に新たなる事業も実施できた。継続して参加している子どもが自主的に事業の企画運営が出来るように成長が見られた
地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。	① 団体の活動が地域に浸透を始め、地域からの要望が見られ、多文化共生が少し進んだと感じる。 ② フォトモのワークショップは予定に無かったが、地域と子どもからの開催要望があり実施 ③ フォトモのワークショップは地域からの要請、ダンスのワークショップは子どもたちからの要請とアートプロジェクトへのワークショップ実施の要請がある事は、事業が多くの人々に理解され交流の場となっている事と理解できる
費用対効果は適正であったか。	予算額に近い金額で予定以上の事業を実施できたので、費用対効果は適正であったと思う
新たに気づいた課題・問題点は何か。また、どのような対策が考えられるか。	昨年までは大久保児童館が大久保一丁目にあり子どもの居場所として活用できたが、今回は閉館になった為、ワークショップの度に荷物を運ぶのが大変であった。その対策として子どもの為の居場所が必要であり、24年度協働事業で実現できる
理解者や支援者が広がったか。	① ワークショップへの参加者が増えた ② 立教大学教授石黒弘昭研究室が参加し助言をしてくれた
事務局の執行体制は十分だったか。	事務局が3人体制になった為、予定以上の事業が出来た上、子どもたちの要望にも対応できた。また高校生がボランティアで手伝ってくれたので、事業がスムーズに実施できた。

<p>今回の事業を次年度以降も継続していく場合、助成金だけに依存せず、今後も安定的に事業を継続するための財源確保等に向けた取り組みはなされていたか。</p>	<p>① 24年度には協働事業として実施できる          ② 企業が興味を示してくれ協力金を提供          ③ 理解者が増える事で寄付や参加費が増える</p>
<p>その他</p>	

#### 4 活動の成果

\* 事業の成果物（冊子など）又は、事業の開催時の写真など提出できるものがある場合は添付してください。  
 \* 参加者の意見なども報告してください。

##### 参加者意見

- ① 映像制作ではカメラの扱いや編集作業が出来るようになった。
- ② 合宿はとても暑かったが、企画から運営までの経験が出来た。
- ③ 写真のワークショップでは子ども総合センターの周りの景色を撮れたのが嬉しかった。
- ④ 映像の上映会と絵本の読み聞かせで、皆の前で自分の母語の本が読めたのが嬉しかった。
- ⑤ 映像の上映会で沢山のひとワークショップが出来て面白かった。